

うめきた2期の特徴

JR大阪駅をはじめとする7駅13路線が接続し、1日約250万人が行き交う西日本最大の鉄道ターミナル駅前（新駅、新線）

都市空間と一体となった「みどり」（全体約8haの「みどり」。うち防災公園4.5ha）

「みどり」での活動や公共空間で展開される体験や実証実験を通じたイノベーションの創出[みどりとイノベーションの融合拠点の実現]

単にまちの中に公園や緑地を確保することにとどまらず、未来に向けた都市や人間と自然、環境との新しい関係性を構築し、比類なき魅力を備え、都市の文化となる新しいまちづくりの概念

「うめきた2期区域まちづくりの方針」より（都市再生緊急整備地域協議会大阪駅周辺地域部会において策定）

取組み（イメージ）

A “健康のシェア”

健康データの取得・管理
ウェルビーイング活動（運動、食事など）の提供、レコメンドサービス等
ARを用いたヨガ・体操コーチング
最先端のセンシング技術を用いたリラクゼーションサービス など

B “育てる体験”

水と緑の中での多様なアクティビティを通じ、公園コミュニティを育成
植物データの共有により来園者がMY TREEを設定し、公園内の植物の擬似的な育成体験を提供
園内のバイオフィリックな個室に泊まる・楽しむ など

イノベーション施設を核として、「みどり」と「イノベーション」の融合拠点を実現



D “つなぐ”

日、月単位で園内に設置される様々な形態のコワーキングスペース
新技術や新製品の開発・実証実験等の企業活動の促進・可視化
周辺駅と公園間、公園内の自動運転・都市内モビリティの利用
ドローンや自動走行ロボット等による公園内・建物内への配送、警備
防災、防犯・安全に資するスマートポール（災害時の充電機能付）の配備
自然エネルギー等を地区全体で有効活用 など

C “感性のシェア”

データ共有により、緑・景観の美しさ、池の水面、滝の流れ・音、夕日映え、近景・遠景・バードアイ（ドローン・気球）を世界に配信
老若男女を問わず感性が高まる落ち着いた空間（屋内外）の提供
世界（姉妹都市など）の公園を映像でシェア
世界規模のスポーツイベント等の開催・体験 など